

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人 普門院診療所		
事業所名	グループホーム 能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地		
自己評価作成日	令和5年12月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和6年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、里山や農家散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の必要性を感じ開設したホームである。開設にあたっては、高齢者福祉の先進国であるスウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣しグループホームのノウハウを習得してきている。「他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供する事」を理念に掲げ、職員は皆明るく優しい言葉かけや態度で接している他、音楽療法も取り入れるなど利用者様の張り合いにもつながっている。コロナウイルス蔓延以前は、地域住民を対象に認知症についての講話をしたり、避難訓練にも参加していただくなど地域に開かれた施設運営に努めていた。運営推進会議には消防署職員にも参加していただき、災害時の協力体制も構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町西部の周辺を田畑や里山に囲まれた自然豊かな場所に立地している。福祉の先進国であるスウェーデンの技術を探り入れた建物は、木材を基調としてあたたかみがあり、断熱や換気機能が整っている。吹き抜けがあり広く開放的な玄関ロビーやリビングのほか、食堂にはピアノや大きなソファを設置し、音楽療法を実施したり、窓からの景色を楽しんだり、利用者が思い思いに寛げる空間となっている。職員は、利用者の意思を尊重して、利用者の立場にたって望ましいケアを提供するという理念のもと、利用者との対話や思いやりを大切にケアにあたっている。母体が医療法人であり、診療所の医療従事者との連携や協力体制が確立され、利用者、家族の安心に繋げている。里山地域という環境特性を考慮し、土砂災害をはじめとした災害対策に高い関心をもち、自治会長、民生委員等、地域との協力体制を整えながら、避難訓練等に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様の個性と尊厳を大切に、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供する」を理念のもと、何かあれば管理者にすぐ報告・相談し、より良いサービスが提供できるよう話し合っている。	職員全員が名札の裏側に手書きで理念を記入し、折に触れて確認できるようにしている。利用者第一の心を大切にしながらケアにあたり、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に資源ごみの提供をしている。運営推進会議に自治会長や民生委員さんにも参加していただき地域の情報を教えてもらっている。	ダンボールやペットボトルなどの資源ごみを定期的に提供するなどして、自治会との交流を図っている。自治会長、民生委員に運営推進会議に参加してもらい、地域の情報をもらったり、災害対策にむけた助言をもらうなど、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が医療法人であることを活かし、医師が認知症や健康についての講話を町のホールやホームなどで行い、地域の貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での活動や取り組み、運営状況など報告。地域の災害対策についてなど意見交換をし、今後のサービス向上に活かしている。会議の内容は全職員にも報告し、ホール掲示板にも貼りだしている。	事業所内の活動内容、運営状況の報告を行い意見交換をしている。地域の災害対策についての関心も高く、会議開催時に避難経路を確認し、意見をもらうなど、協力関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や電話・メールなどで現場の状況を報告したり、制度・研修・講演の情報を教えてもらっている。	町担当職員には、運営推進会議出席時に事業所の取り組み状況や課題等を報告している他、日頃から運営や制度に関する相談をしたり、研修の案内を受けたりと、連絡を密にとり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施している。玄関は開くと音が鳴るようにしており施錠はしていない。点滴などでやむを得ず拘束をする場合には法人内で協議をし、本人・家族の同意を得ている。	勉強会等により身体拘束のないケアについて学ぶとともに、日常の支援の中でも、抑圧的な言葉遣いをしないよう職員同士で注意し合っている。やむを得ず拘束を行う場合も、家族を含めて必要性の検討を重ね、経過観察をこまめに行いながら、最小限の範囲で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会に参加し理解している。又、職員同士注意しながら毎日入居者様の対応にあたっている。当施設では虐待はありません。		

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々に勉強し知識はあるが、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただき分かりやすいように説明をし、理解・納得を得られるように努めている。又、改定時には手紙でお知らせをし、疑問・質問があるときには連絡してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会禁止だったが現在、短時間なら面会可能となった。面会時や電話にて要望など聴くことができている。入居者様には日頃の会話の中で想いを聴いている。	利用料の支払い等での来所時に、利用者の状態を伝えるとともに、家族から意見、要望を聞いている。利用者とは日々のケアの中での会話やコミュニケーションを大切にして、意見や要望を表しやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、日頃のケアの在り方や業務内容の確認など職員の意見・提案を聞いている。すぐ、管理者に報告・相談できる体制がとれている。	職員の気づきや提案を表せるよう、申し送りノートを活用し、全職員で共有している。管理者は風通しの良い職場環境作りに努め、日頃から職員との対話を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・実績・勤務態度を把握し給与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の介護老人保健施設と共に研修の年間予定を立て、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学は受け入れているが、他ホームとの交流・ネットワーク作りは取り組んでいない。		

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時には可能であればご本人様にも来て頂きお話をお聴きしている。入居時には、不安な気持ちを取り除き安心して生活していただけのような言葉かけをするように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症発症時期・症状等を詳しくお聴きし、不安を受け止められるよう努力している。要望等は出来る限り聴き入れられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の状況を詳しくお聴きし、どのようにしたら最善の生活が送れるのかを話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い・テーブル拭き・洗濯物たたみ等、個々の出来る事を一緒に行っている。又、生活の知恵などを教えてもらい参考にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の様子などを報告している。(遠方のご家族には、電話にて報告)病院を受診したときには電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで面会禁止だったが、現在、玄関ホールや外での短時間なら面会できるようになった。	コロナ禍以前は、馴染みの方の面会を受け入れ、居室で自由に過ごせるよう支援していた。現在は、電話や手紙で家族、知人と連絡がとれるように働きかけたり、生家の近くをドライブするなど、馴染みの人や場所とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いにより、時々口論になってしまうこともあるが職員が間に入り対応している。一人ひとりの状態を把握し、共同生活を楽しく過ごせるよう支援している。		

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の継続的な関係を望まれる御家族様や御利用者様は今までいなかったが、希望があれば断ち切らない付き合いをしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様や御家族様から生活歴を聴き、趣味・特技などの意向把握に努めている。意思疎通が難しい方には、表情や仕草などから思いを把握し職員間で共有している。	生活歴や家族からの情報を参考にしながら利用者とコミュニケーションを図っている。トイレや入浴介助時など、1対1での場面での対話を特に大切にしながら、思いの把握に努めている。食事に関する要望等が出され、可能な限り意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人様や御家族様より生活歴や職種など出来るだけ詳しくお聴きしている。入居後不明なことは、面会時や電話にて質問している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録・カンファレンスなどで状況を把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様の要望もお聴きし介護計画を作成している。日々のケアや申し送りの中で入居者様の状態を把握し、変化があればケアマネジャーに報告し、介護計画に反映させている。	申し送りノートや日々の支援のなかで利用者の状態を把握し、利用者がより良く暮らすために必要なケアを計画に反映させている。利用者、家族の要望や状態変化に応じて適切なタイミングで見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等に細かく記入する事により、情報の共有が図れている。又、介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特定の入居者様に既存のサービス外のニーズがあったが、御本人様と御家族様とで話し合い、合意のもとそのサービスを行うことが出来た。		

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食・外出は、感染症状況をみながら徐々に再開している。ボランティアの受け入れは中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が診療所のため、ほとんどが診療所を利用している。かかりつけ医を継続する方は、御家族様に対応を依頼している。	経営母体が診療所であり、月に2回の往診や日常的な連携の中で手厚い医療が受けられる体制を整えている。看護師である管理者を中心に、医療情報の管理や服薬管理を適切に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護職員がいる勤務体制をとり、変化があればすぐ報告し指示をもらう事が出来ているので安心して対応することが出来ている。毎月2回診療所より訪問看護あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の診療所に入院となるので、電話や洗濯物を取りに行ったときに様子を聞いたりして情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・状態変化時などに御家族様に説明し意向の確認をしている。医師からも説明をもらい御本人様や御家族様が望むケアを出来る限り行っている。看取り介護について勉強会を定期的実施している。	医師との連携のもと、段階毎に利用者、家族の意向を確認しながら、看取り介護を実施している。看取りにおけるケアの方法についての勉強会を実施し、全職員が対応にあたるように取り組んでいる。	看取り介護についての勉強会と併せて、看取りを実施する職員の不安感を改善できるよう、心のケアに配慮した体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、急変時や事故発生時の対応を学び、落ち着いて対応するように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内合同で年2回火災訓練、年1回土砂災害訓練を実施している。数日分の着替えや食料も準備してある。地域の方にも協力を得ていたが、感染症など配慮し中止している。	里山地域という環境特性を考慮し、土砂災害をはじめとした災害対策に高い関心をもち、自治会長、民生委員等の協力のもと、訓練に取り組んでいる。水、食料等の備蓄の他、利用者毎に数日分の着替え等避難用品一式を準備し、有事に備えている。	

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、言葉遣いや声掛けに注意し対応している。居室に入る時にはノックをする・入浴時にはシャワーカーテンを閉めるなど、プライバシーへの配慮にも注意している。	居室入室時のノック、入浴時のシャワーカーテンの使用など、プライバシーを配慮した対応に努めている。利用者の人格を尊重することを念頭において、丁寧な声掛けと思いやりを大切にケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動・表情をよく観察し、入居者様の想いを感じとれるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、なるべく入居者様の希望通りに生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容はホームで出来る為、希望を取り入れ定期的にかかっている。ホーム外の理容・美容室も希望により利用出来る(感染症状況をみて)。季節や目的に合わせて本人なりのおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フキや栗など季節の食材と一緒に採りに行き、スジ取り・皮むきなど手伝ってもらい食を楽しむことができています。食器洗いやテーブル拭きも希望する入居者様には手伝ってもらいながら行っている。	昼・夕食は併設の老人保健施設で調理したものを配膳している。朝食、おやつは事業所で手作りし、彩りや旬のものを取り入れ、季節を感じたり食の楽しみが得られるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	言葉かけをし水分補給を促している。御本人の好きな飲み物を御家族に持ってきてもらっている方もいる。食事摂取量・水分量が少ない時は、医師又は外部の栄養士に相談し栄養バランスについて助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをしている。歯科医の往診もあり必要時には利用している。希望にてかかりつけの歯科医院を利用することもある。		

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るよう一人ひとりに合わせ支援している。全て介助するのではなく、出来ないところを介助するよう心掛けている。	排泄チェック表をもとに声掛けを行い、トイレでの自立した排泄ができるよう支援している。一人ひとりに合ったタイミングでの声掛けや誘導により、オムツから紙パンツに移行できたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取してもらったり、体操や散歩などに誘い体を動かしてもらい便秘解消に繋げている。時には便秘薬等を使用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や御本人の希望に沿い週2回は入れるよう職員が1対1で入浴支援している。好きな温度にしたり、入浴剤も使用できる。浴槽は西洋風で高さはあるが、補助具等を使用し安全に配慮している。各居室にもシャワーが設置しており、いつでも使用できる。	週2回を基本に、利用者の希望や身体状態に応じた補助具を使用して入浴支援をしている。職員と1対1でコミュニケーションを図りながらゆっくりと入浴できるよう配慮している。各居室にシャワーを設置し、シャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の主張を尊重し居室に誘導している。不安なく安心して休めるように話を傾聴したり、言葉かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を出してもらい確認出来るようにしている。変化があれば医師に報告し指示を受けている。毎月2回訪問診療あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ・掃除など、個々に合わせ出来る事をしてもらっている。趣味を楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況を見て徐々に外出・外食を再開している。敷地内を散歩し花を摘んだり、栗を拾ったりし季節を楽しみ、気分転換を図っている。	コロナ禍以前は、利用者の要望に応じて、益子町内のドライブや外食に出かけていた。現在は、事業所の敷地内を散歩して、花を見たり栗を拾ったりと、季節を感じながら気分転換できるよう支援している。	

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば御家族様合意のもと所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば自由に利用することが出来る。但し、入居者様の状態により電話の使用を控えさせていただく場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた物や花を飾ったり、目でも楽しめるように工夫している。窓からの風景や花の水やり・季節の飾りを楽しみにしている方もいる。	断熱や換気機能にスウェーデンの建築技術を採用入れた木材を基調とした建物に、あたたかみのある照明を設え、廊下には季節を感じられる作品や水彩画を飾るなど、心地よい空間を整えている。食堂にはピアノやソファを設置し、音楽療法を実施したり、窓から風景を眺めたりと、心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファ席があり、自由に座りテレビを観たり、入居者様同士会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が広くとられており、使い慣れた家具などが持ち込め、自宅のような空間を作ることが出来る。	居室は広く、介護ベッド、クローゼット、洗面台等の他、トイレとシャワーを完備している。利用者には机やテレビ、鏡台など、使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい、自宅と変わらない空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりを付ける、入浴時の椅子を変えるなど、一人ひとりの状態に合わせて、出来るだけ自立した生活を送れるように支援している。		